

科目名	あん摩マッサージ指圧応用実習 I	
対象クラス	専門課程2年	1組
担当教官	松浦 久泰、嶋 正明	
実務経験	有	
修得単位数	4	単位
年間授業時数	120	時間
使用教科書	岡山盲理療研究会編著 手技療法の基礎と臨床	
使用参考書		
授業の方法	実技	
科目の目的	施術者として必要なあん摩マッサージ指圧施術に関する基礎的な知識と技能を身に付け、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。	
科目の概要	1年次に修得したあん摩、マッサージ、指圧の基礎的技術を発展・向上させ、各種疾患・症状に対する病態把握と応用的治療技術を学習することにより、3年次のあん摩マッサージ指圧臨床実習に応用できる技術と態度を修得する。	
自己学習の進め方	深化型あん摩マッサージ指圧補習への参加を促す。	
評価の方法・観点	前期、後期の各学期ごとに、複数教育により実技試験を行い、その平均点をもって学年末評価とする。又、臨床実習前試験を実施し、評価の内容に加える。	
授業内容	合計	120時間
前期 (15週)	前期計	60
1. 導入 (指導計画の説明等)		2
2. 実践的な施術方法 (1年次のあん摩施術の基礎の確認)		
(1) 伏臥位		10
(2) 側臥位		8
3. 実践的な施術方法 (全身のあん摩施術)		
(1) 背腰部		10
(2) 下肢		8
(3) 上肢		6
4. 臨床入門 (臨床実習前試験への対応)		
(1) リスク管理、患者への対応		4
(2) 身体診察		4
(3) 臨床を見据えた応用施術		6
5. 前期のまとめ		2
後期 (15週)	後期計	60
6. 実践的な施術方法 (前期の全身あん摩施術から続き)		
(1) 頭頸部		4
(2) 全身施術		6
7. 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術		
ア 運動器系 (肩こり、頸肩腕痛、腰下肢痛、肩・膝の関節痛) ※徒手検査法含む		22
イ 呼吸器・循環器系 (咳嗽、高血圧症)		8
8. 臨床入門 (臨床実習前試験への対応)		
(1) 診察の進め方		5
(2) 診察から施術の流れ (医療面接、身体診察、施術)		10
9. 模擬臨床実習		3
10. 後期のまとめ		2

科目名	あん摩マッサージ指圧応用実習 I	
対象クラス	専門課程2年	2組
担当教官	小泉 貴、吉野 徹也	
実務経験	有	
修得単位数	4	単位
年間授業時数	120	時間
使用教科書	岡山盲理療研究会編著 手技療法の基礎と臨床	
使用参考書		
授業の方法	実技	
科目の目的	施術者として必要なあん摩マッサージ指圧施術に関する基礎的な知識と技能を身に付け、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。	
科目の概要	1年次に修得したあん摩、マッサージ、指圧の基礎的技術を発展・向上させ、各種疾患・症状に対する病態把握と応用的治療技術を学習することにより、3年次のあん摩マッサージ指圧臨床実習に応用できる技術と態度を修得する。	
自己学習の進め方	深化型あん摩マッサージ指圧補習への参加を促す。	
評価の方法・観点	前期、後期の各学期ごとに、複数教官により実技試験を行い評価し、その平均点をもって学年末評価とする。又、臨床実習前試験を実施し、評価の内容に加える。	
授 業 内 容	合計	120時間
前 期 (15 週)	前期計	60
1. 導入 (指導計画の説明等)		2
2. 実践的な施術方法 (1年次のあん摩施術の基礎の確認)		
(1) 伏臥位		10
(2) 側臥位		8
3. 実践的な施術方法 (全身のあん摩施術)		
(1) 背腰部		10
(2) 下肢		8
(3) 上肢		6
4. 臨床入門 (臨床実習前試験への対応)		
(1) リスク管理、患者への対応		4
(2) 身体診察		4
(3) 臨床を見据えた応用施術		6
5. 前期のまとめ		2
後 期 (15 週)	後期計	60
6. 実践的な施術方法 (前期の全身あん摩施術から続き)		
(1) 頭頸部		4
(2) 全身施術		6
7. 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術		
ア 運動器系 (肩こり、頸肩腕痛、腰下肢痛、肩・膝の関節痛) ※徒手検査法含む		22
イ 呼吸器・循環器系 (咳嗽、高血圧症)		8
8. 臨床入門 (臨床実習前試験への対応)		
(1) 診察の進め方		5
(2) 診察から施術の流れ (医療面接、身体診察、施術)		10
9. 模擬臨床実習		3
10. 後期のまとめ		2

科目名	あん摩マッサージ指圧応用実習Ⅱ	
対象クラス	専門課程2年	1組
担当教官	柴田 均一、牧 邦子	
実務経験	有	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	手技療法の基礎と臨床 改訂第4版	
使用参考書	人体の構造と機能(解剖学)第2版	
授業の方法	実技	
科目の目的	施術者として必要なあん摩マッサージ指圧施術に関する基礎的な知識と技能を理解し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。	
科目の概要	1年次に修得したあん摩、マッサージ、指圧の基礎的技術を発展・向上させ、各種疾患・症状に対する病態把握と応用的治療技術を学習することにより、3年次のあん摩マッサージ指圧臨床実習に応用できる技術と態度を修得する。	
自己学習の進め方	深化型補習へ参加することによって施術の振り返りを行う。	
評価の方法・観点	前期、後期の各学期末に、複数教官により実技試験によって評価を行い、その平均点をもって学年末評価とする。また、臨床実習前試験を実施し、評価の内容に加える。	
授 業 内 容	合計 60時間	
前 期 (15 週)	前期計	30
1. 導入(指導計画の説明等)		1
2. 実践的な施術方法(1年次のマッサージ施術の基礎の確認)		12
3. 健康医学分野の施術法(ヘッドマッサージ)		4
4. 産業医学分野の施術法(ハンドマッサージ)		4
5. 臨床入門(臨床実習前試験への対応を含む)		
(1) リスク管理、患者への対応		2
(2) マッサージ・指圧を含めた施術		5
6. 前期のまとめ		2
後 期 (15 週)	後期計	30
7. 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術		
(1) 消化器系に対する腹部のマッサージ		4
(2) 婦人科系に対する下腿のマッサージ		4
8. 運動療法(腰痛体操・五十肩体操・肩こり体操・大腿四頭筋の強化訓練)		4
9. 臨床入門(臨床実習前試験への対応を含む)		
(1) 診察の進め方		3
(2) 診察から施術の流れ		10
10. 模擬臨床		3
11. 後期のまとめ		2

科目名	あん摩マッサージ指圧応用実習Ⅱ	
対象クラス	専門課程2年	2組
担当教官	牧 邦子、渡邊 麗恵	
実務経験	有	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	手技療法の基礎と臨床 改訂第4版	
使用参考書	人体の構造と機能(解剖学)第2版	
授業の方法	実技	
科目の目的	施術者として必要なあん摩マッサージ指圧施術に関する基礎的な知識と技能を理解し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。	
科目の概要	1年次に修得したあん摩、マッサージ、指圧の基礎的技術を発展・向上させ、各種疾患・症状に対する病態把握と応用的治療技術を学習することにより、3年次のあん摩マッサージ指圧臨床実習に応用できる技術と態度を修得する。	
自己学習の進め方	深化型補習へ参加することによって施術の振り返りを行う。	
評価の方法・観点	前期、後期の各学期末に、複数教官により実技試験を行い評価し、その平均点をもって学年末評価とする。また、臨床実習前試験を実施し、評価の内容に加える。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (15 週)		前期計 30
1. 導入(指導計画の説明等)		1
2. 実践的な施術方法(1年次のマッサージ施術の基礎の確認)		12
3. 健康医学分野の施術法(ヘッドマッサージ)		4
4. 産業医学分野の施術法(ハンドマッサージ)		4
5. 臨床入門(臨床実習前試験への対応を含む)		
(1) リスク管理、患者への対応		2
(2) マッサージ・指圧を含めた施術		5
6. 前期のまとめ		2
後 期 (15 週)		後期計 30
7. 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術		
(1) 消化器系に対する腹部のマッサージ		4
(2) 婦人科系に対する下腿のマッサージ		4
8. 運動療法(腰痛体操・五十肩体操・肩こり体操・大腿四頭筋の強化訓練)		4
9. 臨床入門(臨床実習前試験への対応を含む)		
(1) 診察の進め方		3
(2) 診察から施術の流れ		10
10. 模擬臨床		3
11. 後期のまとめ		2

科目名	はりきゅう応用実習 I	
対象クラス	専門課程2年	1組
担当教官	高橋 忠庸、島村 明盛、尾崎 雅則	
実務経験	有	
修得単位数	4	単位
年間授業時数	120	時間
使用教科書	鍼灸実技 オリエンズ研究会編	
使用参考書	新版 経絡経穴概論、人体の構造の機能 解剖学 第2版	
授業の方法	実技	
科目の目的	施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。	
科目の概要	1年次の基礎実技の復習を行い、施術者としての心構えやリスク管理を身に着けるとともに、触察や取穴ができるよう指導し、的確に刺鍼できるように享受する。臨床実習前に施術実技試験等を行い、技術等に関する評価を行う。また、施術所見学を実施する。	
自己学習の進め方	解剖学や東洋医学概論、経絡経穴概論の知識が必要になるため、1年次に授業で習ったことを復習するよう心掛ける。	
評価の方法・観点	前期、後期の各学期末に実技試験を実施し、その平均点をもって学年末の評価とする。期末試験においては、刺鍼・施灸技術、診察・施術の流れ、施術部位の取穴法、衛生リスク管理、患者への対応等について評価する。また、臨床実習前試験による評価結果も加味する。	
授 業 内 容		合計 120時間
前 期 (15 週)		前期計 60
1. 基礎実技		
17手技		6
直刺・斜刺・横刺		6
2. 西洋医学的診察法に基づいた鍼灸施術		
(1) 下腿と足関節		4
(2) 骨盤と腰仙・仙腸関節		8
(3) 背腰部		8
(4) 肩関節		4
(5) 膝関節		4
(6) 前腕と手関節		2
(7) 頭頸部		2
3. 臨床入門(臨床実習前試験への対応を含む)		
(1) 衛生リスク管理、患者への対応		7
(2) 身体診察(触察、知覚検査等)		8
前期のまとめ		1
後 期 (15 週)		後期計 60
4. 分野別の治療法(健康医学分野、産業医学分野、スポーツ医学分野、老年医学分野)		4
5. 特殊鍼法(小児鍼法、皮内鍼法、灸頭鍼法)		4
6. 日常遭遇しやすい主な疾患や症状に対する診察と施術		
(1) 運動器系(肩こり、頸肩腕痛、腰下肢痛、肩・膝の関節痛)		10
(2) 呼吸器・循環器系(咳嗽、高血圧症)		6
(3) 消化器系(胃炎、便秘、下痢)		6
(4) 婦人科系(月経異常、更年期障害)		4
7. 低周波鍼通電療法		8
8. 臨床入門(臨床実習前試験への対応を含む)		
(1) 診察の進め方		4
(2) 適応の判定		4
(3) 診察から治療の流れ(医療面接、身体診察、治療等)		7
9. 施術所見学		2
後期のまとめ		1

科目名	はりきゅう応用実習 I	
対象クラス	専門課程2年	2組
担当教官	島村 明盛、山田 忠、嶋 正明	
実務経験	有	
修得単位数	4	単位
年間授業時数	120	時間
使用教科書	鍼灸実技 オリエンズ研究会編	
使用参考書	新版 経絡経穴概論、人体の構造の機能 解剖学 第2版	
授業の方法	実技	
科目の目的	施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。	
科目の概要	1年次の基礎実技の復習を行い、施術者としての心構えやリスク管理を身に着けるとともに、触察や取穴ができるよう指導し、的確に刺鍼できるように享受する。臨床実習前に施術実技試験等を行い、技術等に関する評価を行う。また、施術所見学を実施する。	
自己学習の進め方	解剖学や東洋医学概論、経絡経穴概論の知識が必要になるため、1年次に授業で習ったことを復習するよう心掛ける。	
評価の方法・観点	前期、後期の各学期末に実技試験を実施し、その平均点をもって学年末の評価とする。期末試験においては、刺鍼・施灸技術、診察・施術の流れ、施術部位の取穴法、衛生リスク管理、患者への対応等について評価する。また、臨床実習前試験による評価結果も加味する。	
授 業 内 容		合計 120時間
前 期 (15 週)		前期計 60
1. 基礎実技		
17手技		
直刺・斜刺・横刺		6
2. 西洋医学的診察法に基づいた鍼灸施術		
(1) 下腿と足関節		4
(2) 骨盤と腰仙・仙腸関節		8
(3) 背腰部		8
(4) 肩関節		4
(5) 膝関節		4
(6) 前腕と手関節		2
(7) 頭頸部		2
3. 臨床入門(臨床実習前試験への対応を含む)		
(1) 衛生リスク管理、患者への対応		7
(2) 身体診察(触察、知覚検査等)		8
前期のまとめ		1
後 期 (15 週)		後期計 60
4. 分野別の治療法(健康医学分野、産業医学分野、スポーツ医学分野、老年医学分野)		
5. 特殊鍼法(小児鍼法、皮内鍼法、灸頭鍼法)		
6. 日常遭遇しやすい主な疾患や症状に対する診察と施術		
(1) 運動器系(肩こり、頸肩腕痛、腰下肢痛、肩・膝の関節痛)		10
(2) 呼吸器・循環器系(咳嗽、高血圧症)		6
(3) 消化器系(胃炎、便秘、下痢)		6
(4) 婦人科系(月経異常、更年期障害)		4
7. 低周波鍼通電療法		
8. 臨床入門(臨床実習前試験への対応を含む)		
(1) 診察の進め方		4
(2) 適応の判定		4
(3) 診察から治療の流れ(医療面接、身体診察、治療等)		7
9. 施術所見学		
後期のまとめ		1

科目名	はりきゅう応用実習Ⅱ	
対象クラス	専門課程2年	1組
担当教官	池田 和久、高橋 清志、大久保 正樹	
実務経験	有	
修得単位数	2	単位
年間授業時間数	60	時間
使用教科書	鍼灸実技 オリエンズ研究会編	
使用参考書	新版 経絡経穴概論	
授業の方法	実技	
科目の目的	施術者として必要なはりきゅう施術に関する東洋医学的な知識と技能について修得し、はりきゅう施術を適切かつ効果的に行う技能と態度を養う。また、はりきゅう応用Ⅰと並行して授業を進めることによって、東西医学の両面から配穴を行い、総合的な診断、治療ができるよう触察技術を基本に実習する。	
科目の概要	1年次に修得したはり、きゅうの知識と基礎的技術を応用し、はりきゅう応用実習Ⅰと連携しながら、主に東洋医学的観点で各種疾患や症状の総合的な診断や治療ができるようにする。また、臨床実習に備えて、施術の流れを理解し、適切かつ効果的に行う能力と態度を身につける。	
自己学習の進め方	1年次の知識と技術の復習と、2年次の他の科目進行に伴い得られた内容を発展・応用することに留意する。	
評価の方法・観点	随時試験+期末試験+平常点+臨床実習前試験で評価する。期末試験については、刺鍼・施灸技術、診断・治療の流れ、施術部位の取穴法、衛生面、患者への対応などについて評価する。前期、後期の期末評価の平均点をもって学年末評価とする。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (15 週)		前期計 30
1. 年間授業計画、評価、必要用具、身だしなみについての説明		1
2. 体幹の触察と背部兪穴、募穴への施灸と刺鍼		4
(1) 体幹の触察		
(2) 背部兪穴・募穴への施術		
3. 東洋医学による診察法の基礎と鍼灸施術		
(1) 脈状診		5
(2) 比較脈診		5
(3) 基本四証		3
(4) 腹診(上下腹診法を中心に)		3
4. 臨床入門(臨床実習前試験への対応を含む)		
(1) 衛生リスク管理、患者への対応		4
(2) 施術の流れとリスクに関すること		2
(3) 医療面接に関すること		2
5. 前期のまとめ		1
後 期 (15 週)		後期計 30
6. 原穴・絡穴・郄穴、下合穴の運用と鍼灸施術		6
7. 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術 東洋医学的診断に基づいた鍼灸施術(灸療法と特効穴の運用を含む)		12
(1) 運動器疾患		
(2) 呼吸器、循環器疾患		
(3) 婦人科疾患		
(4) 消化器系疾患(胃炎、便秘、下痢)		
8. 特殊鍼法(皮内鍼法、接触鍼法(小児鍼)ほか)		4
9. 臨床入門(臨床実習前試験への対応を含む)		
(1) 診察の進め方		2
(2) 適応の判定(リスク管理を含む)		2
(3) 診察から治療の流れ(医療面接、身体診察、脈診、取穴、施灸操作等)		3
10. 後期のまとめ		1

科目名	はりきゅう応用実習Ⅱ	
対象クラス	専門課程2年	2組
担当教官	池田 和久、高橋 清志、奥山 夕記子	
実務経験	有	
修得単位数	2	単位
年間授業時間数	60	時間
使用教科書	鍼灸実技 オリエンズ研究会編	
使用参考書	新版 経絡経穴概論	
授業の方法	実技	
科目の目的	施術者として必要なはりきゅう施術に関する東洋医学的な知識と技能について修得し、はりきゅう施術を適切かつ効果的に行う技能と態度を養う。また、はりきゅう応用Ⅰと並行して授業を進めることによって、東西医学の両面から配穴を行い、総合的な診断、治療ができるよう触察技術を基本に実習する。	
科目の概要	1年次に修得したはり、きゅうの知識と基礎的技術を応用し、はりきゅう応用実習Ⅰと連携しながら、主に東洋医学的観点で各種疾患や症状の総合的な診断や治療ができるようにする。また、臨床実習に備えて、施術の流れを理解し、適切かつ効果的に行う能力と態度を身につける。	
自己学習の進め方	1年次の知識と技術の復習と、2年次の他の科目進行に伴い得られた内容を発展・応用することに留意する。	
評価の方法・観点	随時試験+期末試験+平常点+臨床実習前試験で評価する。期末試験については、刺鍼・施灸技術、診断・治療の流れ、施術部位の取穴法、衛生面、患者への対応などについて評価する。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (15 週)		前期計 30
1. 年間授業計画、評価、必要用具、身だしなみについての説明		1
2. 体幹の触察と背部兪穴、募穴への施灸と刺鍼		4
(1) 体幹の触察		
(2) 背部兪穴・募穴への施術		
3. 東洋医学による診察法の基礎と鍼灸施術		
(1) 脈状診		5
(2) 比較脈診		5
(3) 基本四証		3
(4) 腹診(上下腹診法を中心に)		3
4. 臨床入門(臨床実習前試験への対応を含む)		
(1) 衛生リスク管理、患者への対応		4
(2) 施術の流れとリスクに関すること		2
(3) 医療面接に関すること		2
5. 前期のまとめ		1
後 期 (15 週)		後期計 30
6. 原穴・絡穴・郄穴、下合穴の運用と鍼灸施術		6
7. 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術		12
東洋医学的診断に基づいた鍼灸施術(灸療法と特効穴の運用を含む)		
(1) 運動器疾患		
(2) 呼吸器、循環器疾患		
(3) 婦人科疾患		
(4) 消化器系疾患(胃炎、便秘、下痢)		
8. 特殊鍼法(皮内鍼法、接触鍼法(小児鍼)ほか)		4
9. 臨床入門(臨床実習前試験への対応を含む)		
(1) 診察の進め方		2
(2) 適応の判定(リスク管理を含む)		2
(3) 診察から治療の流れ(医療面接、身体診察、脈診、取穴、施灸操作等)		3
10. 後期のまとめ		1

科目名	あん摩マッサージ指圧臨床実習						
対象クラス	専門課程3年						
担当教官	佐取 幸枝、渡邊 麗恵						
実務経験	有						
修得単位数	2	単位					
年間授業時数	90	時間					
使用教科書	手技療法の基礎と臨床(改訂第4版)						
使用参考書	臨床理療学(初版)						
授業の方法	実技						
科目の目的	施術者として必要な、あん摩マッサージ指圧臨床に関する知識と技能について理解し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する。						
科目の概要	実習協力者への施術を通して、診察、施術、施術結果の把握、記録と考察の一連の流れを身につける。						
自己学習の進め方	予約患者のカルテ確認、病態把握等、臨床実習準備に重点を置き、関連科目の内容も含めて振り返ることを心がける。						
評価の方法・観点	前期、後期の各学期末に当該年度の理療教育課・臨床実習評価基準に基づいて評価する。各期末成績の平均点をもって学年末の評価とする。						
	授	業	内	容	合計 90時間		
	前	期	(14	週)	前期計 42
	1. ガイダンス					6	
	(1) 臨床実習の位置づけと施術室における流れの説明						
	(2) 環境確認(ベッドメイキング、患者の誘導、後片付けを含む)						
	(3) リスク管理、衛生管理、施術録作成の説明・指導						
	2. 実習協力者を介しての病態像の把握とあん摩マッサージ指圧による施術					28	
	(1) 再診における問診必要事項の聴取						
	(2) 必要な触診、徒手検査の実行、施術適否の判定						
	(3) 施術の目標・目的の設定と施術方法の組み立て						
	(4) 利用者による施術と教官による確認と指導						
	3. 効果判定、評価					2	
	(1) 利用者で教官による直後効果の判定、評価						
	(2) 実習協力者からの施術後の実感の聴取						
	4. パソコンによる電子施術録の作成とチェック、指導、カンファレンス					5	
	利用者から提出された施術録のチェックと必要な指導						
	5. 前期のまとめ					1	
	後	期	(16	週)	後期計 48
	6. 実習協力者を介しての病態像の把握とあん摩マッサージ指圧による施術					36	
	(1) 初診・再診それぞれに応じて問診必要事項の聴取						
	(2) 必要な触診、徒手検査の実行、施術適否の判定						
	(3) 施術の目標・目的の設定と施術方法の組み立て						
	(4) 利用者による施術と教官によるチェックと指導						
	7. 効果判定、評価					4	
	(1) 利用者で教官による直後効果の判定、評価						
	(2) 実習協力者からの施術後の実感の聴取						
	8. パソコンによる電子施術録の作成とチェック、指導、カンファレンス					7	
	利用者から提出された施術録のチェックと必要な指導						
	9. 後期のまとめ					1	

